

1. 事業説明シート

事業名	治水事業 [基幹河川改修事業 (国補)]	事業箇所	西八代郡市川三郷町市川大門	地区名	芦川	事業主体	山梨県																																				
<p>(1) 事業の概要</p> <p>①課題・背景 芦川は、西八代郡市川三郷町に位置し、上流は笛吹市芦川町上芦川、下流は富士川合流点までの流路延長L=23.6km、流域面積A=85.2km²の一級河川である。近年では平成23年9月の台風15号により、身延線JR橋下右岸が被災し近隣地区に避難勧告がなされた。 芦川橋直近は、水衝部で河道も狭く、流下能力が不足している区間であり、かつ、築堤河川となっており、左右岸に民地が連担していることから、破堤した場合、甚大な被害が生じる河川である。このため流下能力の向上を目的とした河道改修を実施し、洪水時の芦川の氾濫防止を図る必要がある。</p> <p>②整備目標・効果 <input type="checkbox"/> 主要目標 ○洪水被害の防止 ・過去の災害実績、事業の緊急度、災害発生の危険度 23点≥21点以上※ ・想定氾濫区域1ha当たり被害軽減額 118百万円/ha ≥6百万円/ha※ ※評価基準値</p> <p><input type="checkbox"/> 副次目標 -</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果 ○被災時の被害波及の防止 (JR身延線、県道甲府市川三郷線：第2次緊急輸送道路)</p> <p>③目標達成の方法 河川改修 L=1,300m 河積の拡大による流下能力の向上 流下能力 400m³/s→670m³/s 治水安全度 1/3.8→1/50</p>				<p>(3) 中・長期計画等の位置付け 笛吹川下流圏域河川整備計画(変更)を策定予定。</p>																																							
<p>(2) 整備内容と整備量</p> <p>①整備内容 河川改修 L=1,300m</p> <p>②整備期間 平成25年度～平成36年度</p> <p>③総事業費 約2,030百万円 (国費1,015百万円(5/10)県費1,015百万円(5/10))</p> <p>④全体計画 (年度別整備内容) (事業費)</p> <table border="1"> <tr><td>平成25年度</td><td>測量、設計 1式</td><td>50百万円</td></tr> <tr><td>平成26年度</td><td>護岸工</td><td>100百万円</td></tr> <tr><td>平成27年度</td><td>護岸工</td><td>100百万円</td></tr> <tr><td>平成28年度</td><td>護岸工</td><td>180百万円</td></tr> <tr><td>平成29年度</td><td>護岸工 用地取得</td><td>230百万円</td></tr> <tr><td>平成30年度</td><td>護岸工 用地取得</td><td>220百万円</td></tr> <tr><td>平成31年度</td><td>護岸工</td><td>100百万円</td></tr> <tr><td>平成32年度</td><td>護岸工 用地取得</td><td>190百万円</td></tr> <tr><td>平成33年度</td><td>護岸工 用地取得</td><td>280百万円</td></tr> <tr><td>平成34年度</td><td>橋梁工1式 用地取得</td><td>180百万円</td></tr> <tr><td>平成35年度</td><td>橋梁工1式 用地取得</td><td>190百万円</td></tr> <tr><td>平成36年度</td><td>護岸工</td><td>210百万円</td></tr> </table> <p><input type="checkbox"/> 既整備内容・期間・事業費 なし</p>				平成25年度	測量、設計 1式	50百万円	平成26年度	護岸工	100百万円	平成27年度	護岸工	100百万円	平成28年度	護岸工	180百万円	平成29年度	護岸工 用地取得	230百万円	平成30年度	護岸工 用地取得	220百万円	平成31年度	護岸工	100百万円	平成32年度	護岸工 用地取得	190百万円	平成33年度	護岸工 用地取得	280百万円	平成34年度	橋梁工1式 用地取得	180百万円	平成35年度	橋梁工1式 用地取得	190百万円	平成36年度	護岸工	210百万円	<p>(4) 事業位置等図</p> <p>Legend: — 今回事業評価箇所 — 将来計画箇所</p>			
平成25年度	測量、設計 1式	50百万円																																									
平成26年度	護岸工	100百万円																																									
平成27年度	護岸工	100百万円																																									
平成28年度	護岸工	180百万円																																									
平成29年度	護岸工 用地取得	230百万円																																									
平成30年度	護岸工 用地取得	220百万円																																									
平成31年度	護岸工	100百万円																																									
平成32年度	護岸工 用地取得	190百万円																																									
平成33年度	護岸工 用地取得	280百万円																																									
平成34年度	橋梁工1式 用地取得	180百万円																																									
平成35年度	橋梁工1式 用地取得	190百万円																																									
平成36年度	護岸工	210百万円																																									

2. 評価シート

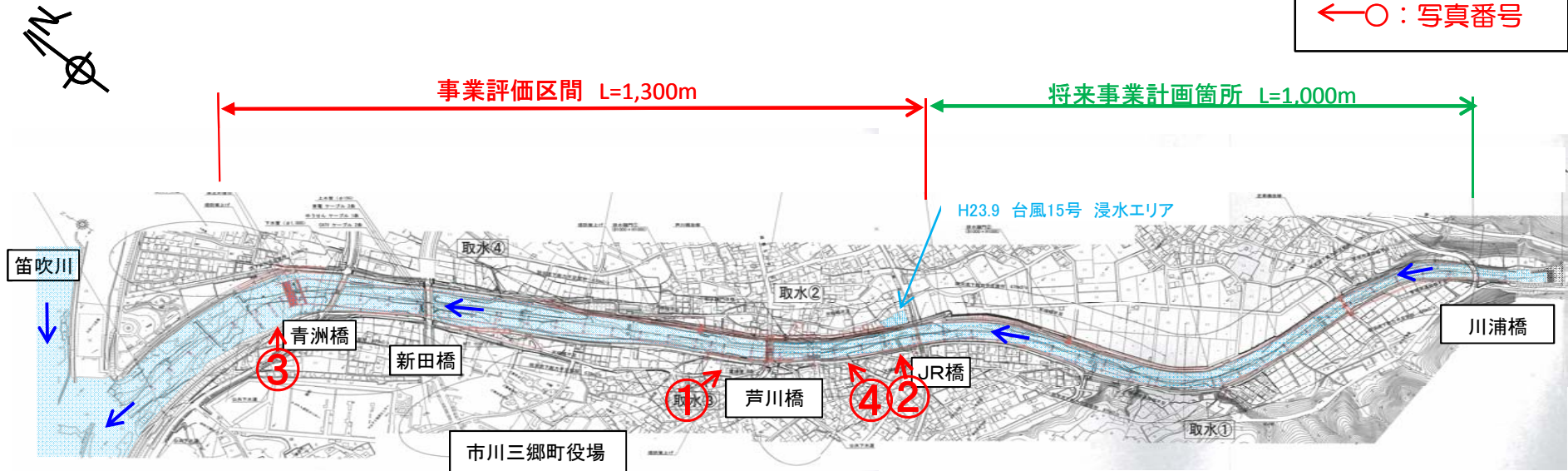
<p>(1) 公共関与の妥当性 (行政が行うべき事業か) <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	<p>(5) 整備手法の有効性 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>
<p>(理由) ・河川法第1条および第9条により、河川の洪水防止を義務付けられている。</p>	<p>(理由) ・浸水被害を早期に解消するためには、河道拡幅及び河床掘削による河積の拡大が、流下能力を上げる最も有効な手法である。</p>
<p>(2) 事業執行主体の妥当性 (県が行うべきか) <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	<p><input type="checkbox"/> 他の整備手法の有無 (状況) <有 <input checked="" type="radio"/> 無></p>
<p>(理由) ・県管理一級河川 (指定区間) である。</p>	
<p>(3) 経済効率性 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	
<p>(理由) ・費用(C)=17.2億円 (内訳)建設費 15.9億円 維持管理費 1.3億円 ・費用(B)=761.8億円 (内訳)便益 760.9億円 残存価値 0.9億円 ・費用便益比 (B/C) =44.3</p>	<p>(6) 環境負荷への配慮 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p> <p>(理由) ・芦川に生息する生物の生息環境を創出することを目的に、河岸・水際に捨石を設置する。</p>
<p>(4) 事業実施・規模の妥当性 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p>	
<p>(理由) ・平成23年に氾濫被害が生じており、流下能力不足の解消を図る必要がある。 ・破堤した場合に被害の影響が大きい築堤区間の整備を早急に実施する。</p>	
<p><input type="checkbox"/> 同等施設等(計画を含む)の有無 (状況) <有 <input checked="" type="radio"/> 無></p>	<p>(7) 事業計画の熟度 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p> <p>(理由) ・事業区間には、平成23年に浸水被害もあり、地元からの強い要望もあったことから、今後、事業説明会を開催するなど周知を計っていく。</p>
<p><input type="checkbox"/> 必要整備量の根拠 (状況) 整備箇所の下流端は、計画流下能力を満足する青洲橋下流とした。また、上流端はH23.9の豪雨により被災したJR身延線上流までの改修延長L=1,300mとした。 河川幅、水深等河川断面は、流量計算及び河川管理施設等構造令による。 水深3.5m 余裕高1.0m</p>	<p>《総合評価》 <input checked="" type="radio"/> 妥当 <input type="radio"/> 妥当でない</p> <p>(理由) 7項目全て妥当と評価されることから、実施が妥当と判断する。</p>

3. 添付資料シート(1)

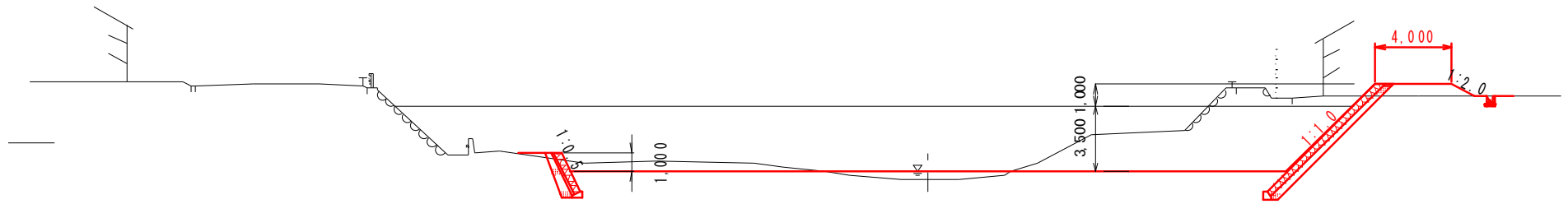
平面図

凡例

- 河川
- 写真番号



標準断面図



① 芦川橋下流



② 平成23年9月 台風15号被災箇所



③ 平成23年9月 台風15号出水状況 青洲橋下



④ 芦川橋上流 保全家屋

